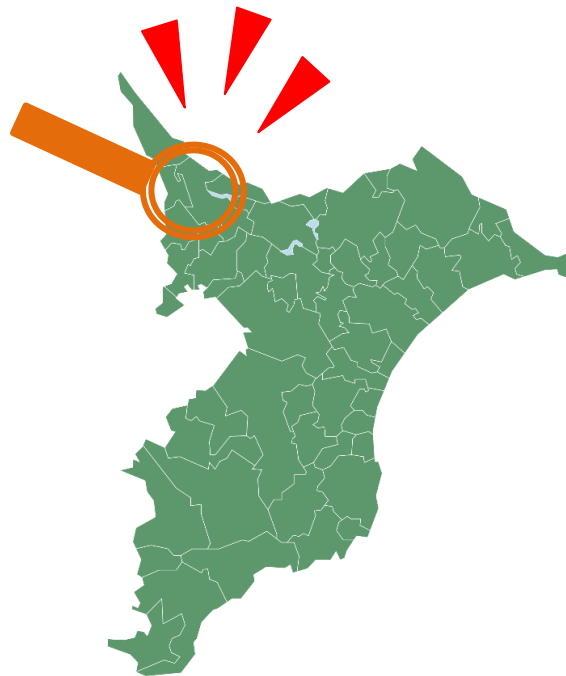


2026・5

柏の景気情報

令和8（2026）年5月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

T E L : 04-7162-3305

F A X : 04-7162-3323

U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E - m a i l : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和8年5月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

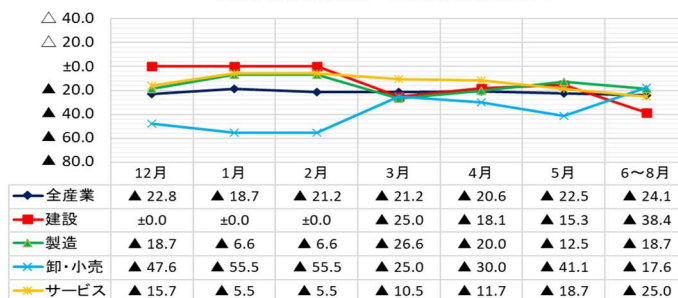
回答期間：令和8年5月20日～令和8年6月2日 調査対象：柏市内173事業所及び組合にヒアリング、回答数62

物価高や材料不足等が引き続き各業界へ直撃。国際情勢の好転が業界復活への焦点になる。

5月の全産業合計の業況DI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲22.5（前月水準▲20.6）となりマイナス幅が1.9ポイント拡大した。

各業界、国際情勢悪化により物価高、原材料不足の影響で打撃を受けている状況が依然として続いている。製造業では原材料不足により製造したくても出来ない状況が継続。各業界、景気回復にはまだ時間がかかる見通しだ。

柏の景気情報・産業別業況DI



★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

いぐさ農家さんの宣伝の効果か？高くても国産のいぐさで畳表替えをしたいというお客様が増加している事により、業況好転が予想される。（畳工事請負・畳製造販売業）
原油高騰により資材不足で現場が進まない（土木工事業）



製造業

レジン原料の素材の高騰により、これに由来する資源材料仕入先の変更などが発生。コスト増加が見込まれるが、いまのところ、生産計画には支障なし。（酒類製造業）原材料、商材の欠品、納期遅れ、値上げが石油関連商材を中心に多発している。値上げについては、毎月価格改定を実施する取引先も出てきた。価格転嫁が追い付かず、欠品による売上の機会損失も増加。（自動車・同附属品製造業）



卸・小売業

客数が伸び売上は改善しているが、コストアップの圧力が大きく利益は昨年を維持するのが精一杯である。経費はあらゆる手を尽くして昨年並みで耐え忍んでいる（人件費と水光熱費の上昇が激しいので他を削減して帳尻を合わせている）（大型小売店）包装資材の卸売業ですが、ナフサ由来の製品の出荷制限・受注停止が実施されているなか、思い通りの仕入れができなくなっている。価格のみが大幅に改定（値上）されいる状態が続き、製品は動かずとも価格だけが独り歩きしており、先行き不透明感がかかなり高い。（包装資材機器卸）



サービス業

仕入れや消耗品、修繕費用が大幅に上昇しており利益を圧迫している状況です。全体的に2～3割上昇しており採算が悪化し続けております。（ゴルフ練習場）従業員の補強が今月より確保され、人員については適正化が図られた。中東情勢について、弊社には資材的な影響は無いが、経費の増加に注意が必要である。一方で新規事業分野拡大のための資金確保や分野拡大の活動を進める必要がある。（地質調査・地質コンサルタント）少子化の影響もあって、大学は推薦入試が主流となり、最近では高3塾生の7割近くが年内に受験を終えてしまう。この影響で12月～2月の売上が落ち込むため、英検講座や小論文講座などを春から前倒しで実施している。（学習塾）

★全国の商工会議所早期景気観測調査（CCI-LOBO）との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲22.5に対し、「CCI-LOBO」が▲24.3で、柏のほうが全国平均と比較して1.8ポイント上回っており、全国的な急降下に対しては、一定の底堅さを見せている。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業、サービス業である。

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 22.5	 ▲ 15.3	 ▲ 12.5	 ▲ 41.1	 ▲ 18.7
CCI-LOBO	 ▲ 24.3	 ▲ 24.8	 ▲ 22.6	 ▲ 30.7	 ▲ 18.0
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 14.5	 ▲ 38.4	 ± 0.0	 ▲ 17.6	 ▲ 6.2
CCI-LOBO	 ▲ 3.3	 ▲ 17.1	 3.8	 ▲ 10.2	 1.6
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 22.5	 ▲ 23.0	 ▲ 12.5	 ▲ 35.2	 ▲ 18.7
CCI-LOBO	 ▲ 21.2	 ▲ 24.8	 ▲ 18.0	 ▲ 24.7	 ▲ 20.9
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 79.0	 ▲ 84.6	 ▲ 81.2	 ▲ 76.4	 ▲ 75.0
CCI-LOBO	 ▲ 76.0	 ▲ 85.2	 ▲ 76.8	 ▲ 76.1	 ▲ 71.1
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 12.9	 46.1	 6.2	 ▲ 11.7	 18.7
CCI-LOBO	 20.0	 38.4	 9.9	 14.4	 24.8
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 14.5	 ▲ 7.6	 ▲ 18.7	 ▲ 17.6	 ▲ 12.5
CCI-LOBO	 ▲ 14.4	 ▲ 12.3	 ▲ 18.2	 ▲ 19.7	 ▲ 13.2

CCI-LOBO

商工会議所早期景気観測(5月速報)

調査期間：2025年5月14日～20日

調査対象：全国の326商工会議所が2,455企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、中東情勢の影響が拡がり悪化

先行きは、影響の収束が見通せず、厳しい見方続く

く

全産業合計の業況DIは、▲24.3(前月比▲2.4ポイント)

建設業では、底堅い設備投資需要が下支えとなり、ほぼ横ばいに止まったものの、全業

種で中東情勢の緊迫化に伴うエネルギー・仕入価格の上

昇や調達困難化の影響が見られている。特に、製造業・

建設業では、受注・生産量の減少や納期遅延などが発生

しており、影響が深刻化している。卸売業・小売業・サー

ビス業へも、石油由来製品の価格高騰・供給制約による利

益率悪化といった影響が幅広く及んでおり、内需関連産

業にも下押し圧力が拡大している様子がうかがえる。

長引く物価高や円安の影響で消費者の節約志向が高まっている。大型連休は近場の

観光施設や飲食店を中心に好調だったが、その後は勢いを欠いている。

先行き見通しDIは、▲27.3(今月比▲3.0ポイント)

高水準での賃上げが下支えとなっているものの、足もと

の燃料価格の上昇や長引く物価高が、消費マインドを下

押ししている。

また、中東情勢の影響の収束が見通せない中、現状が長期

化した場合、事業の見直しや資金繰りの悪化等につながる

ことが懸念され、先行きは一段と悪化を見込んでいる。

【建設業】

「管内(札幌・千歳)における高利益率の大型建築工

事が増加したことから、業況は改善している」(一般工事

業)

「中東情勢の影響でほとんどの建築資材で値上がりが発生している。仕入価格が上がりすぎて、見積もりを出し

ても金額を見て諦めるお客様が増えている。当社の利幅を下げて対応しているが、それでも受注は減少している」(リフォーム工事業)

【製造業】

「中東情勢の影響による原油不足や高騰の影響で、原材料や資材等の調達が十分にできていない。また、金属加工に

必要不可欠な加工油やナフサ等も不足しており、今後も調

達難が続くと、工場の稼働が止まってしまふ恐れがある」

(自動車・附属品製造業)

「ナフサ不足により新規の包材に納入制限がかかった。印

字内容に少しでも変更が生じると新規扱いとなるため、新

製品の製造ができない」(食料品製造業)

【卸売業】

「石油関連製品の供給制約により、一部取引先から見積

もり不可や新規取引不可を提示されている」(機械器具卸売

業)

「ナフサショックの影響が大きすぎる。今後、建築業界では、材料がなくて完工できず、お金

がもらえない状況が相次ぎ、資金繰りが悪化する企業が増加

することが想定される。政府には制度融資の検討を進めて欲しい」(建築材料卸売業)

「値上げにより売上は確保できているが、物価高による節約志向から客数は減少している。

包材やトレイなど仕入コストも増大している」(商店街)

【小売業】

「ナフサ不足の影響で仕入先から生産中止の連絡が相次いでいる。メーカーによる値上げ

も凄まじく、一部ではお客様の買い占めも始まっている。当社

の商品のほとんどが石油由来のため、事態の早期収束を望んでいる」(文房具小売業)

【サービス業】

「エンジンオイルやブレーキオイル等の油脂類やタイヤなど

で欠品や納期遅延が発生している。現在の在庫が尽きた後の新規手配の目途が立たず、先

行きの営業に不安がある」(自動車整備業)

「GWは近場のレジャー需要が好調で売上が増加したが、GW以降の客数は伸び悩んでいる」(飲食店)

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

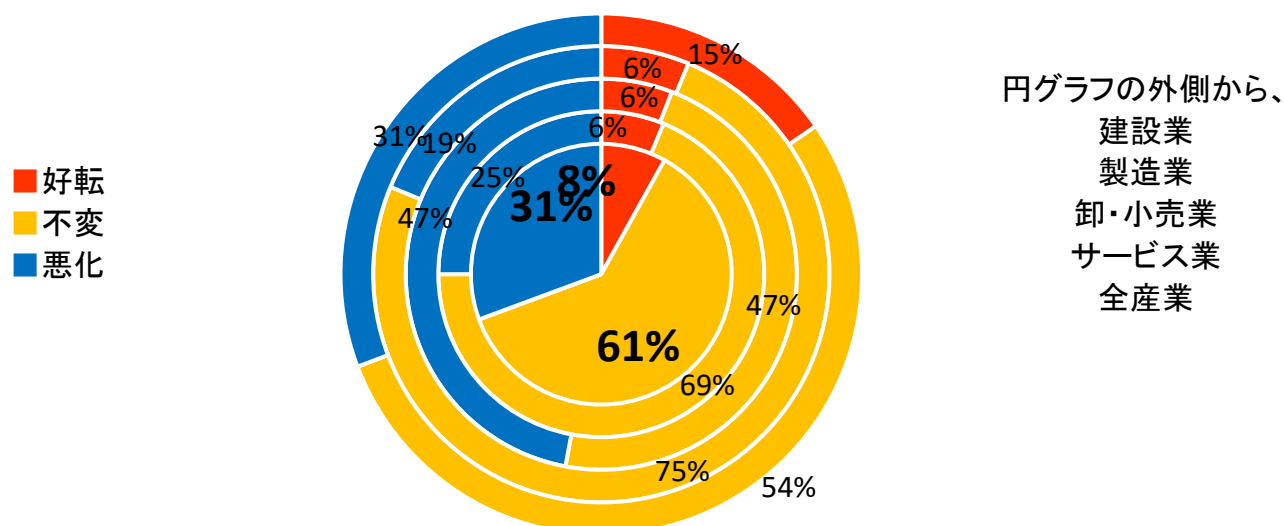
	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
12月	▲18.0	▲14.7	▲21.6	▲23.4	▲24.0	▲9.9
1月	▲17.9	▲15.2	▲17.2	▲23.8	▲25.1	▲12.1
2月	▲16.8	▲13.6	▲13.6	▲23.5	▲24.8	▲13.0
3月	▲20.0	▲15.5	▲19.1	▲30.2	▲25.1	▲15.1
4月	▲21.9	▲17.7	▲23.0	▲23.1	▲23.5	▲8.6
5月	▲24.3	▲24.8	▲22.6	▲30.8	▲30.7	▲18.0
見通し	▲27.3	▲25.8	▲27.1	▲36.2	▲31.0	▲21.9

令和8年（2026年）5月の動向

【業況について】

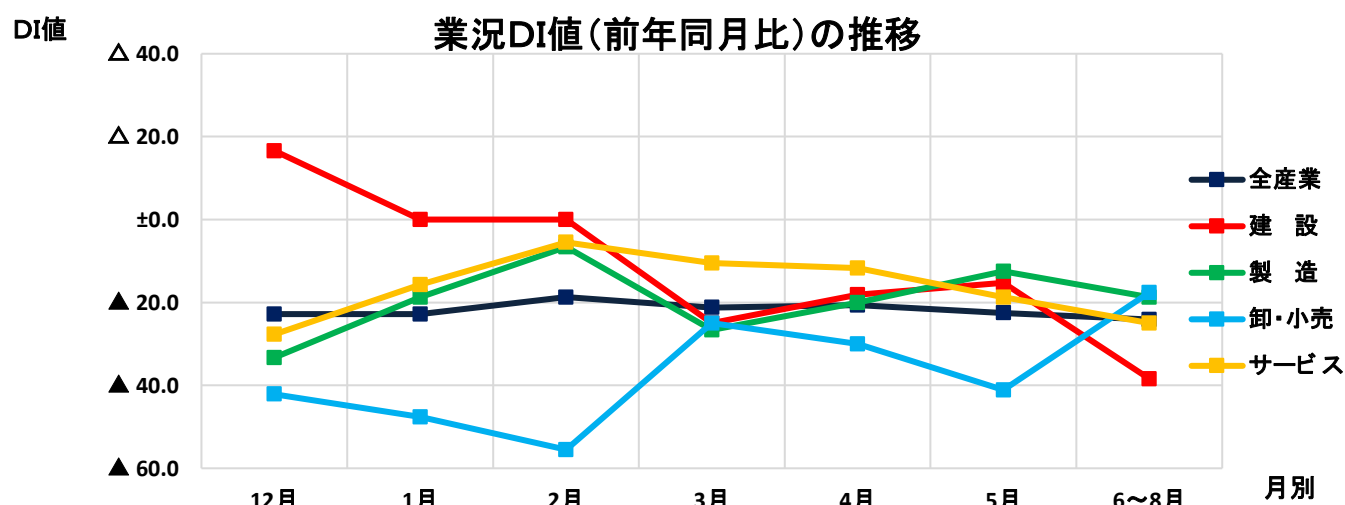
- 5月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲22.5（前月水準▲20.6）となり、マイナス幅が1.9ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月（6月から8月）の先行き見通しについては、全産業では、▲24.1（前月水準▲38.0）となり、マイナス幅が13.9ポイント縮小した。

前年同月と比較した今月の業況について



業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合－「悪化」の回答割合

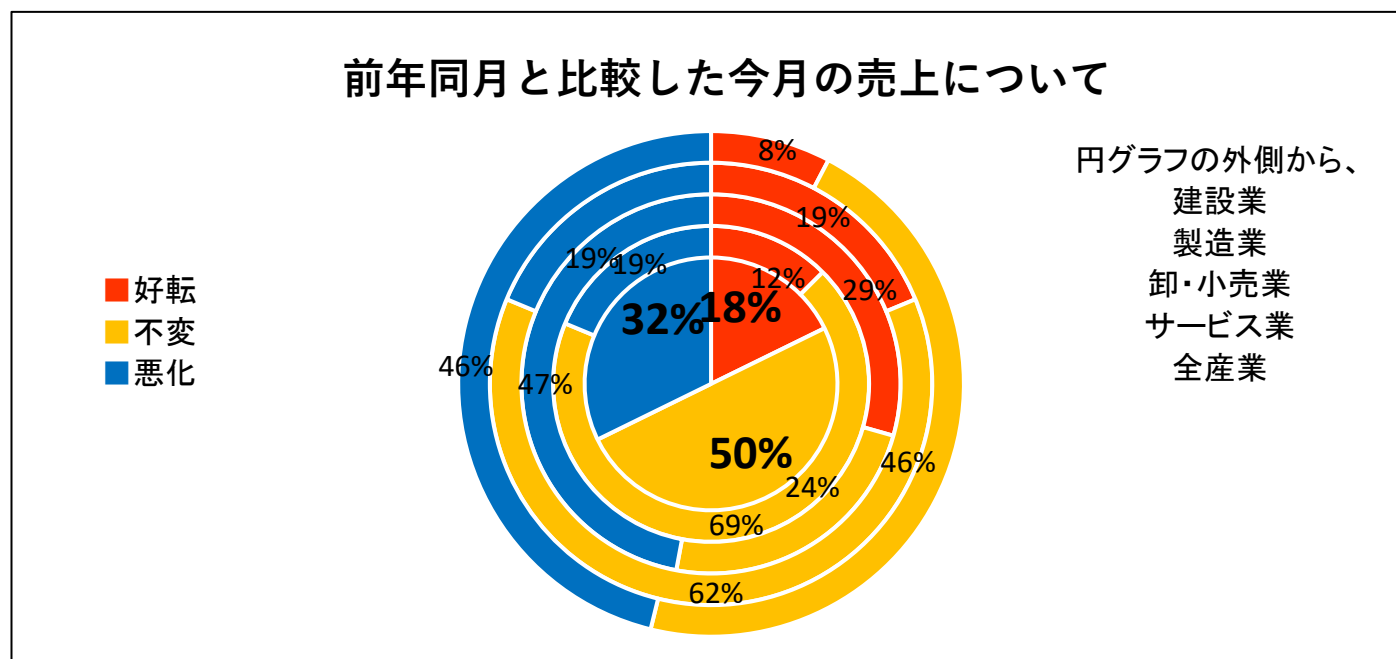
	令和7年 12月	令和8年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月 (5～7月)
全産業	▲22.8	▲22.8	▲18.7	▲21.2	▲20.6	▲22.5	▲24.1 (▲38.0)
建設	△16.6	±0.0	±0.0	▲25.0	▲18.1	▲15.3	▲38.4 (▲54.5)
製造	▲33.3	▲18.7	▲6.6	▲26.6	▲20.0	▲12.5	▲18.7 (▲60.0)
卸・小売	▲42.1	▲47.6	▲55.5	▲25.0	▲30.0	▲41.1	▲17.6 (▲30.0)
サービス	▲27.7	▲15.7	▲5.5	▲10.5	▲11.7	▲18.7	▲25.0 (▲17.6)



【売上について】

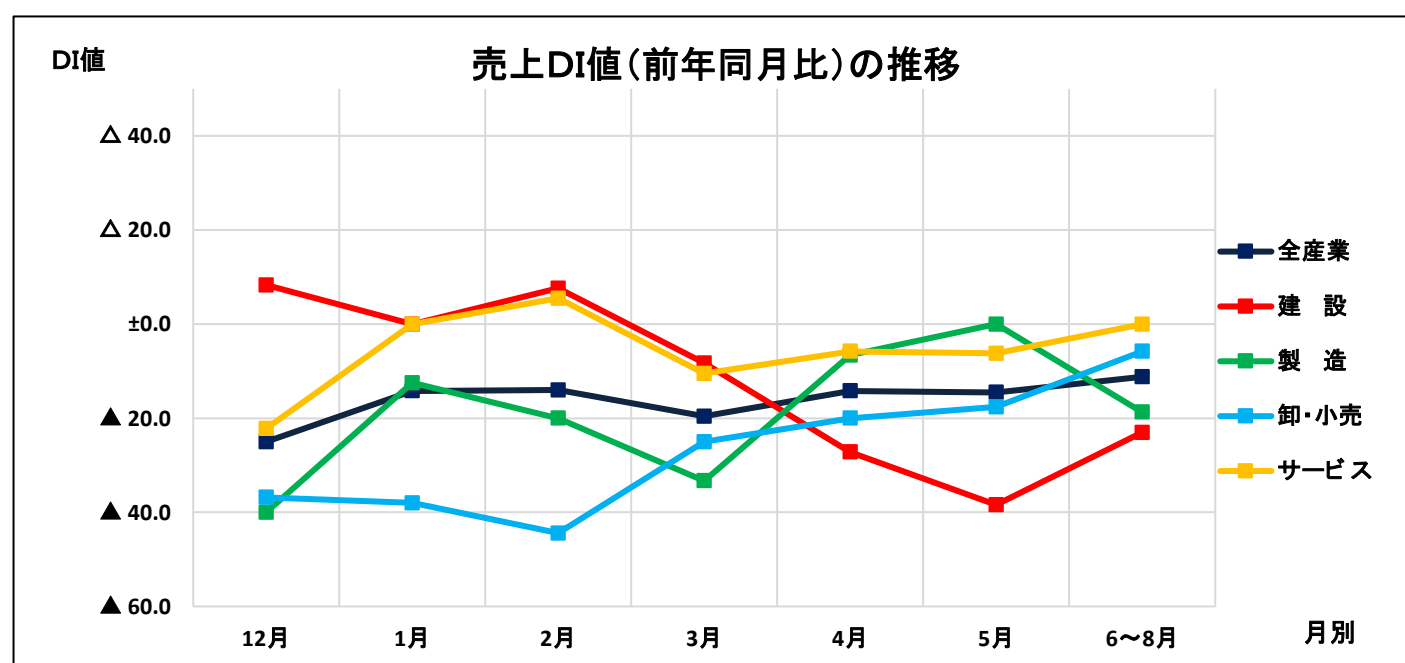
○5月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.5 (前月水準▲14.2)となり、マイナス幅0.3ポイント拡大した。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲11.2 (前月水準▲17.4)となり、マイナス幅が6.2ポイント縮小した。☒



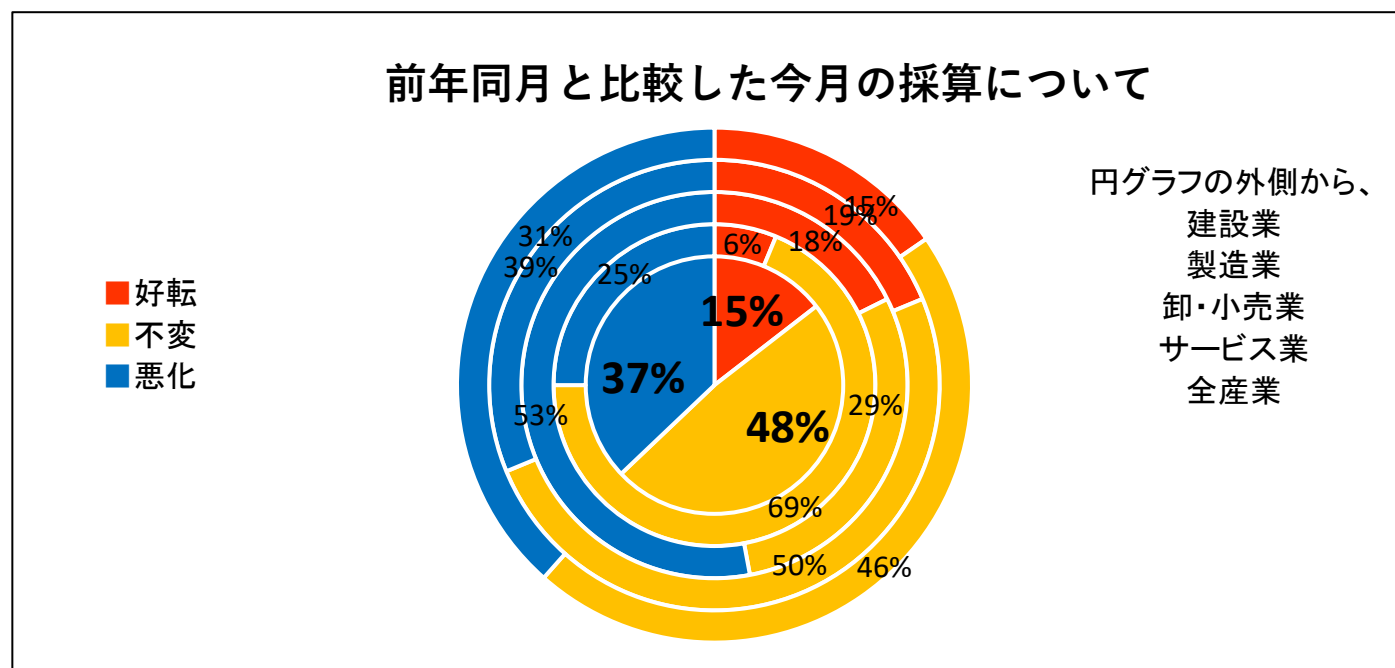
売上D I 値 (前年同月比) の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和7年 12月	令和8年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月 (5~7月)
全産業	▲25.0	▲14.2	▲14.0	▲19.6	▲14.2	▲14.5	▲11.2 (▲17.4)
建 設	△8.3	±0.0	△7.6	▲8.3	▲27.2	▲38.4	▲23.0 (▲45.4)
製 造	▲40.0	▲12.5	▲20.0	▲33.3	▲6.6	±0.0	▲18.7 (▲13.3)
卸・小売	▲36.8	▲38.0	▲44.4	▲25.0	▲20.0	▲17.6	▲5.8 (▲10.0)
サービ ス	▲22.2	±0.0	△5.5	▲10.5	▲5.8	▲6.2	±0.0 (▲11.7)



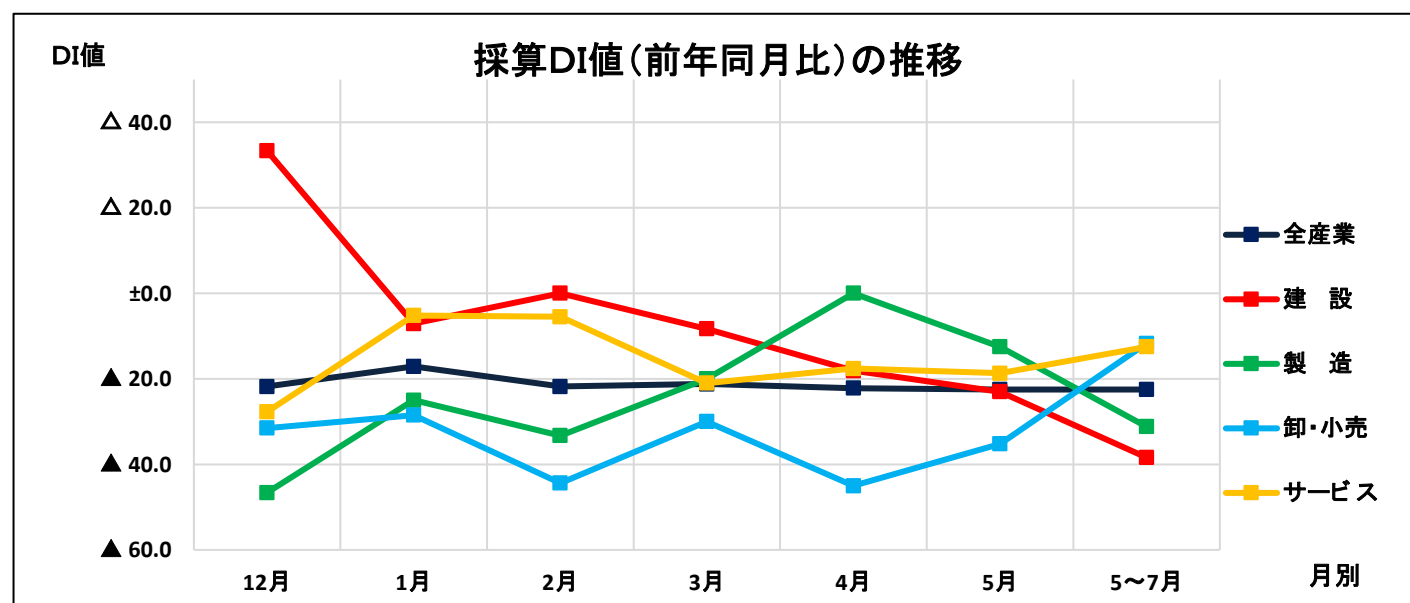
【採算について】

- 5月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲ 2 2. 5 (前月水準▲ 2 1. 2) となり、マイナス幅が1. 3ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲ 2 2. 5 (前月水準▲ 1 9. 6) であり、マイナス幅が2. 9ポイント拡大する見通しである。



採算D I 値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合－「悪化」の回答割合

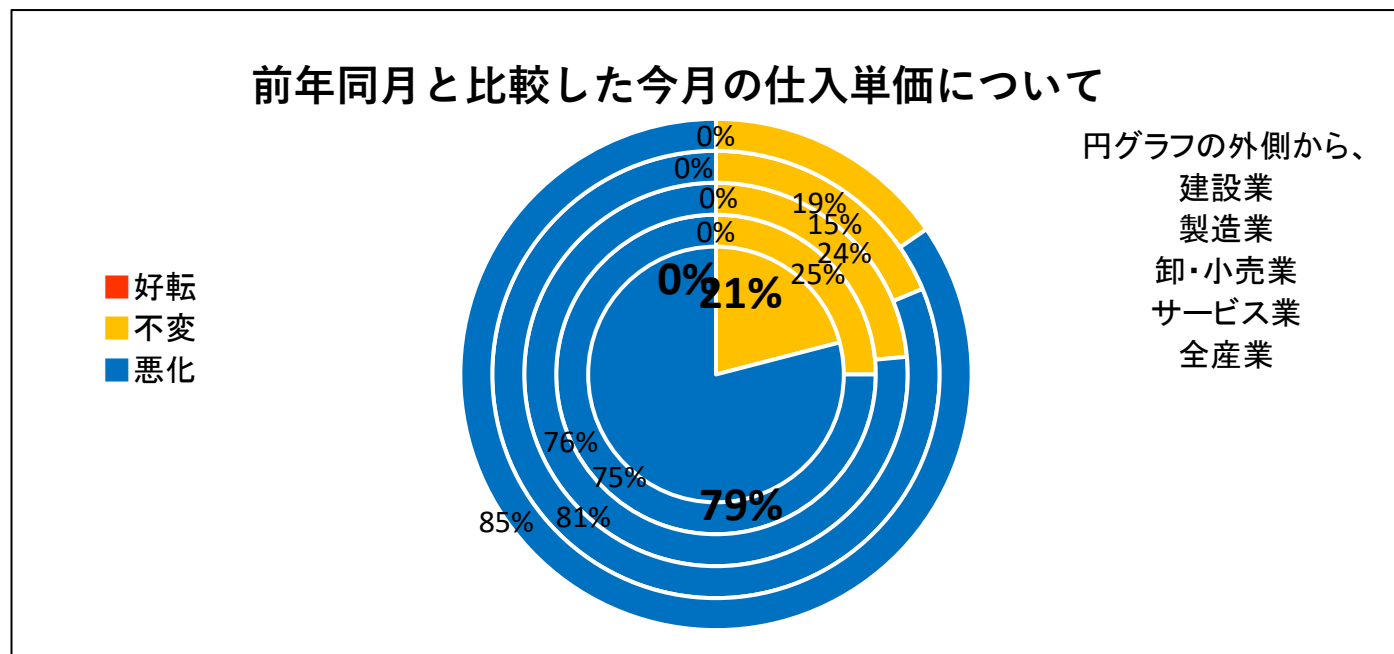
	令和7年 12月	令和8年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 5～7月 (4～6月)
全産業	▲ 21.8	▲ 17.1	▲ 21.8	▲ 21.2	▲ 22.2	▲ 22.5	▲ 22.5 (▲ 19.6)
建 設	△ 33.3	▲ 7.1	± 0.0	▲ 8.3	▲ 18.1	▲ 23.0	▲ 38.4 (△ 16.6)
製 造	▲ 46.6	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 20.0	± 0.0	▲ 12.5	▲ 31.2 (▲ 26.6)
卸・小売	▲ 31.5	▲ 28.5	▲ 44.4	▲ 30.0	▲ 45.0	▲ 35.2	▲ 11.7 (▲ 40.0)
サービ ス	▲ 27.7	▲ 5.2	▲ 5.5	▲ 21.0	▲ 17.6	▲ 18.7	▲ 12.5 (▲ 15.7)



【仕入単価について】

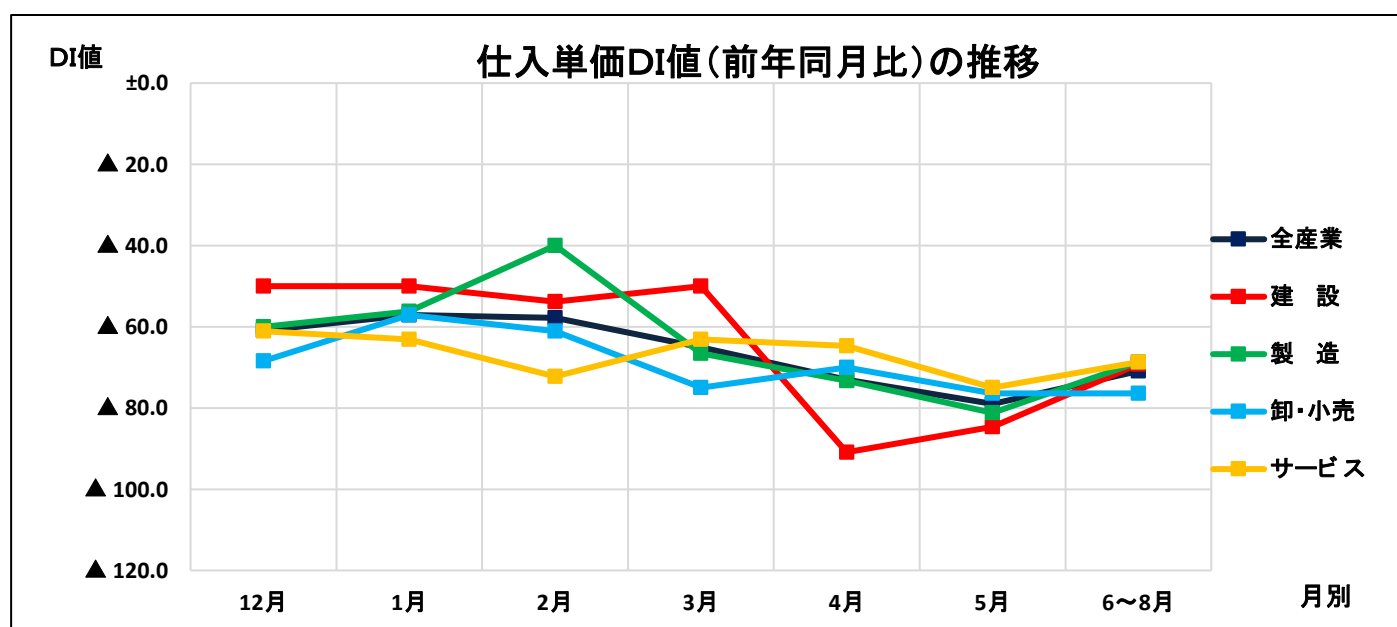
○5月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲79.0 (前月水準▲65.1)となり、マイナス幅13.9ポイント拡大した。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲70.9 (前月水準▲76.1)となり、マイナス幅が5.2ポイント縮小する見通しである。



仕入単価D I 値（前年同月比）の推移 ※DI = 「下落」の回答割合－「上昇」の回答割合

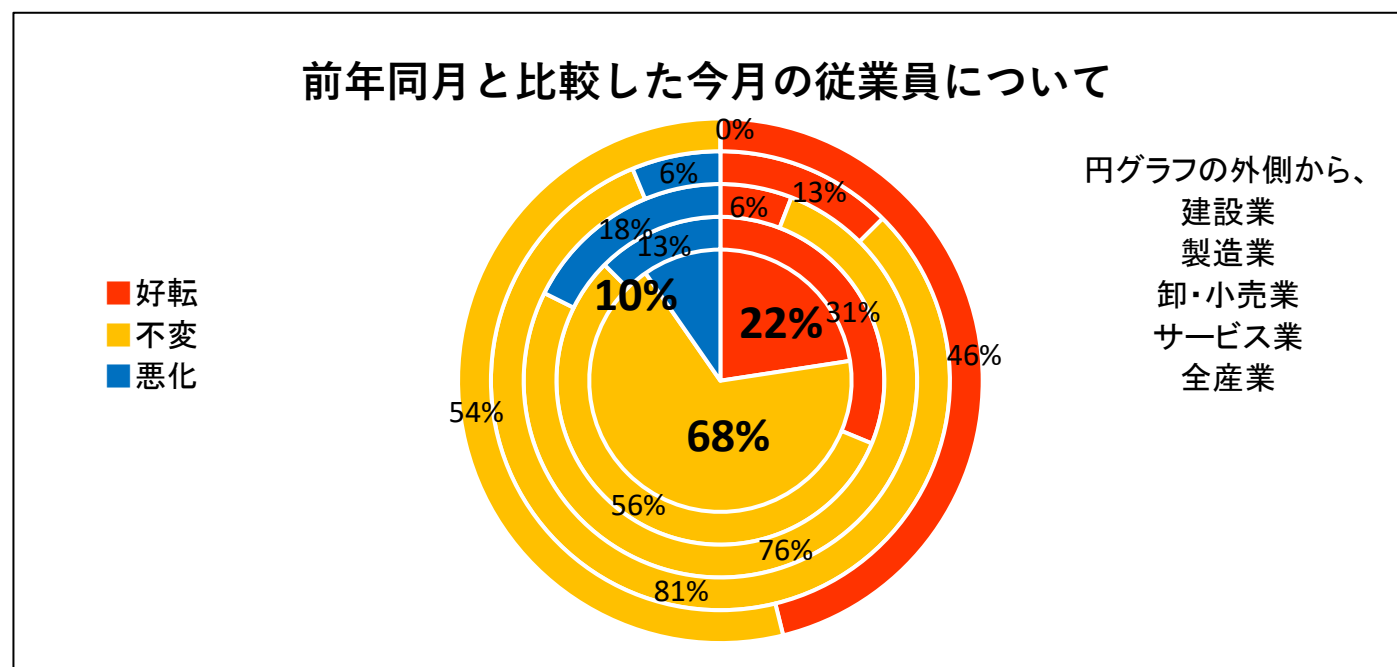
	令和7年 12月	令和8年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し	
							6～8月 (	5～7月)
全産業	▲ 60.9	▲ 57.1	▲ 57.8	▲ 65.1	▲ 73.0	▲ 79.0	▲ 70.9 (	▲ 76.1)
建 設	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 53.8	▲ 50.0	▲ 90.9	▲ 84.6	▲ 69.2 (	▲ 81.8)
製 造	▲ 60.0	▲ 56.2	▲ 40.0	▲ 66.6	▲ 73.3	▲ 81.2	▲ 68.7 (	▲ 93.3)
卸・小売	▲ 68.4	▲ 57.1	▲ 61.1	▲ 75.0	▲ 70.0	▲ 76.4	▲ 76.4 (	▲ 75.0)
サービ ス	▲ 61.1	▲ 63.1	▲ 72.2	▲ 63.1	▲ 64.7	▲ 75.0	▲ 68.7 (	▲ 58.8)



【従業員について】

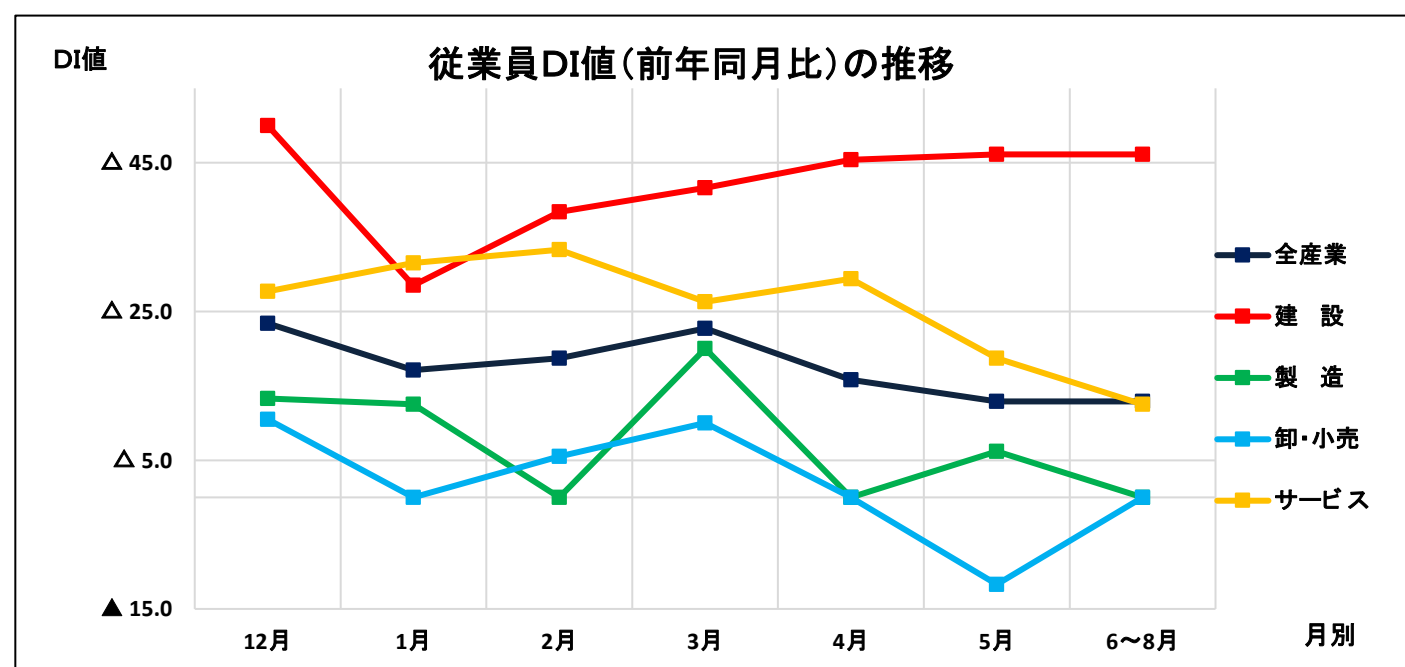
○5月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△12.9 (前月水準△15.8)となり、プラス幅が2.9ポイント縮小した。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、△12.9 (前月水準△11.1)となり、プラス幅1.8ポイント拡大する見通しである。



従業員D I 値 (前年同月比) の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和7年 12月	令和8年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月 (5~7月)
全産業	△ 23.4	△ 17.1	△ 18.7	△ 22.7	△ 15.8	△ 12.9	△ 12.9 (△ 11.1)
建 設	△ 50.0	△ 28.5	△ 38.4	△ 41.6	△ 45.4	△ 46.1	△ 46.1 (△ 54.5)
製 造	△ 13.3	△ 12.5	±0.0	△ 20.0	±0.0	△ 6.2	±0.0 (▲ 13.3)
卸・小売	△ 10.5	±0.0	△ 5.5	△ 10.0	±0.0	▲ 11.7	±0.0 (±0.0)
サービ ス	△ 27.7	△ 31.5	△ 33.3	△ 26.3	△ 29.4	△ 18.7	△ 12.5 (△ 17.6)

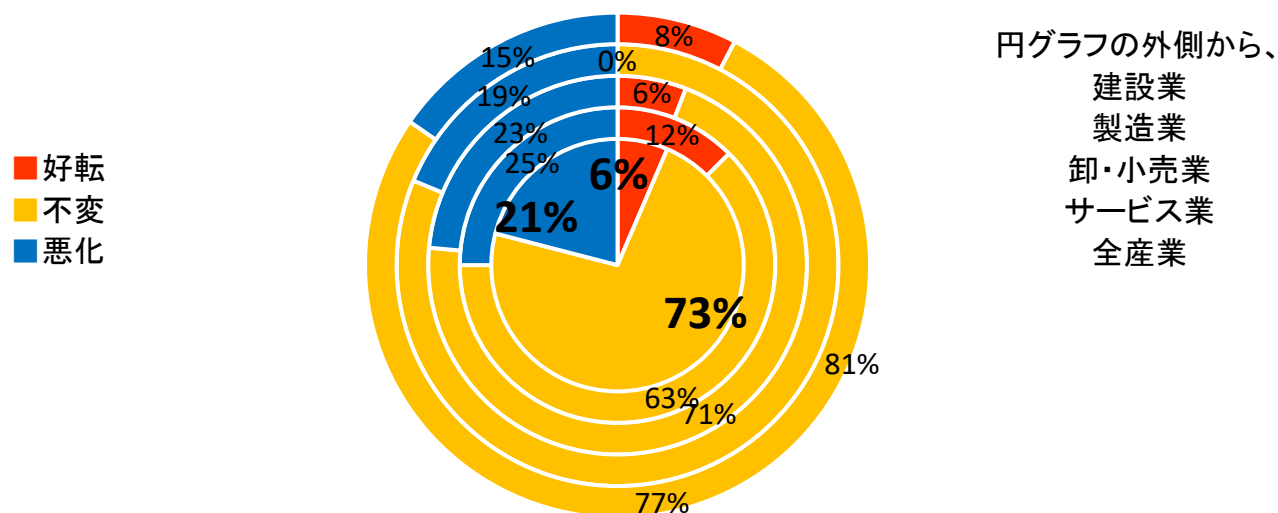


【資金繰りについて】

○5月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.5 (前月水準▲6.3)となり、マイナス幅が8.2ポイント拡大した。

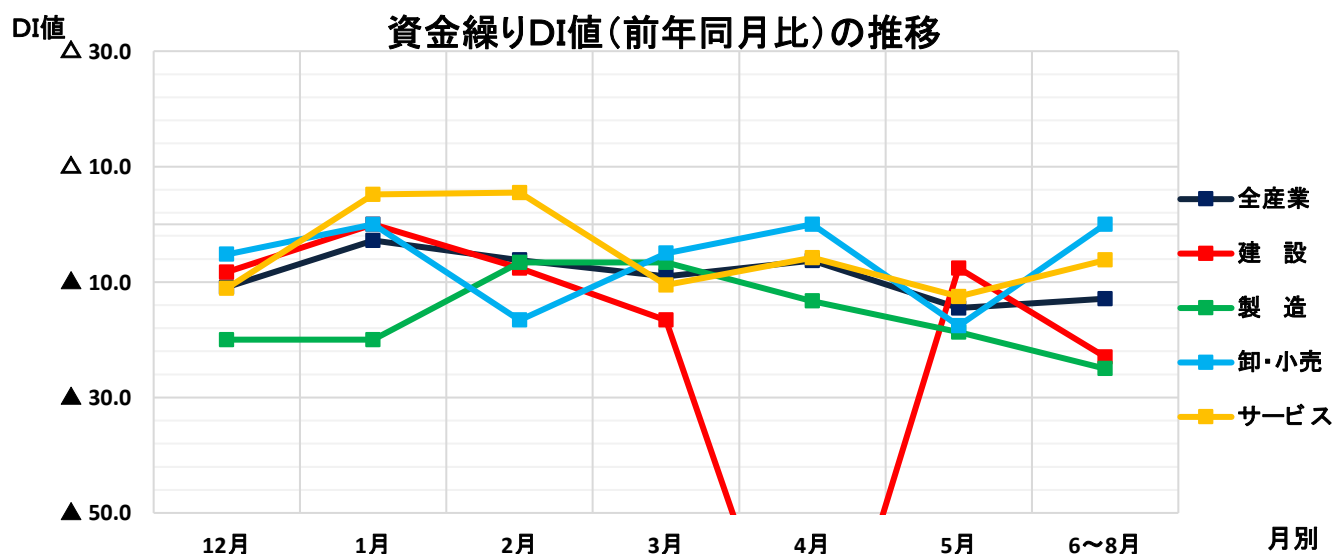
○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.9 (前月水準▲19.0)となり、マイナス幅が6.1ポイント縮小する見通しである。

前年同月と比較した今月の資金繰りについて



資金繰りD I 値 (前年同月比) の推移 ※DI = 「好転」の回答割合 - 「悪化」の回答割合

	令和7年 12月	令和8年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月 (5~8月)
全産業	▲ 10.9	▲ 2.8	▲ 6.2	▲ 9.0	▲ 6.3	▲ 14.5	▲ 12.9 (▲ 19.0)
建 設	▲ 8.3	±0.0	▲ 7.6	▲ 16.6	▲ 90.0	▲ 7.6	▲ 23.0 (▲ 27.2)
製 造	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 6.6	▲ 6.6	▲ 13.3	▲ 18.7	▲ 25.0 (▲ 33.3)
卸・小売	▲ 5.2	±0.0	▲ 16.6	▲ 5.0	±0.0	▲ 17.6	±0.0 (▲ 10.0)
サービ ス	▲ 11.1	△ 5.2	△ 5.5	▲ 10.5	▲ 5.8	▲ 12.5	▲ 6.2 (▲ 11.7)

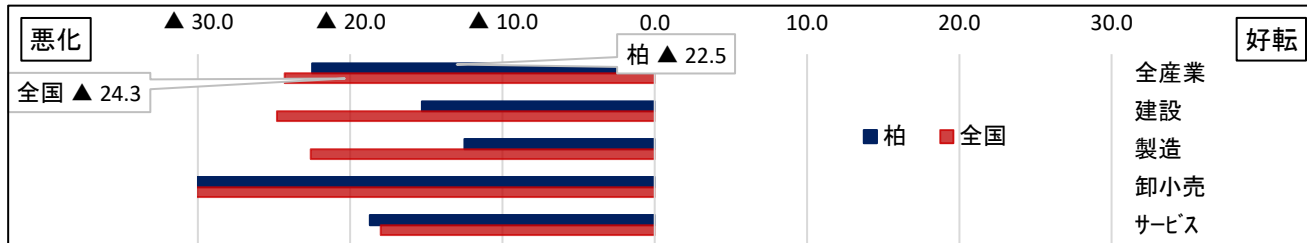


全国（CCI - LOBO）との比較

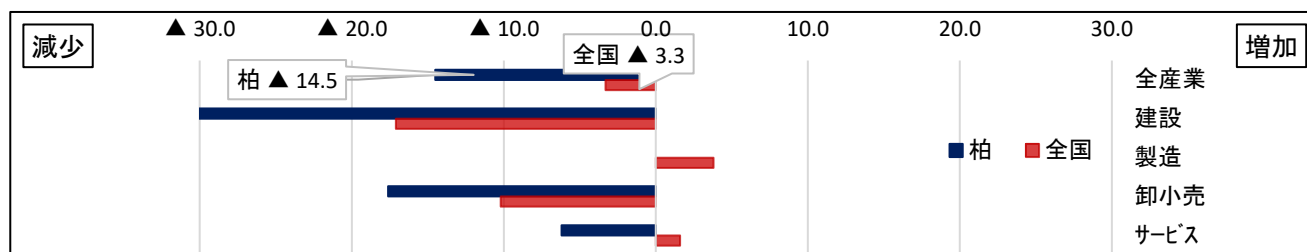
【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

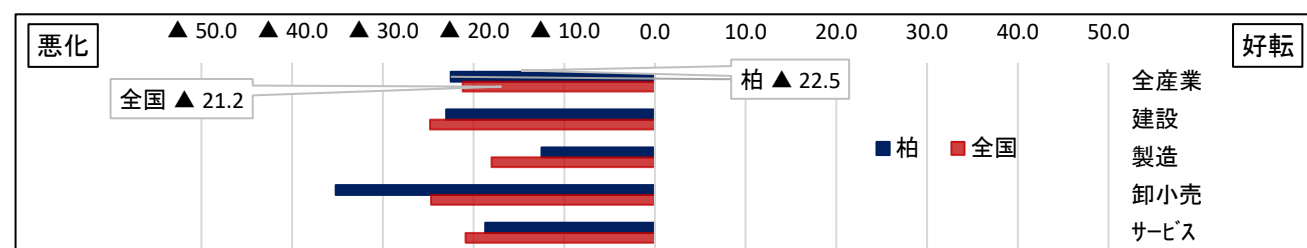
【業況DI】



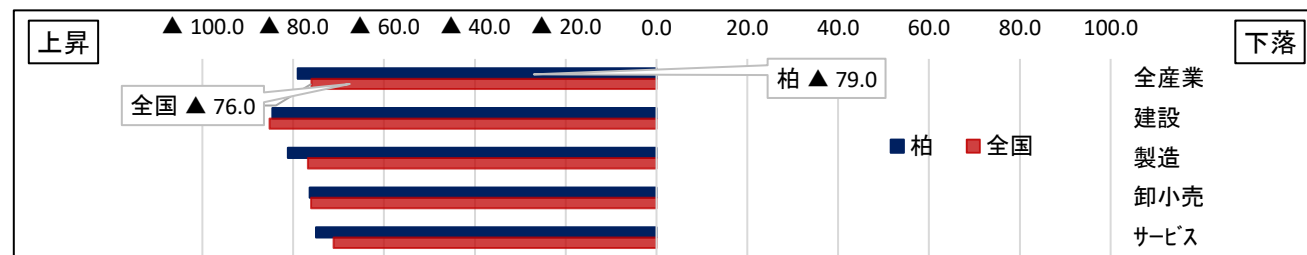
【売上DI】



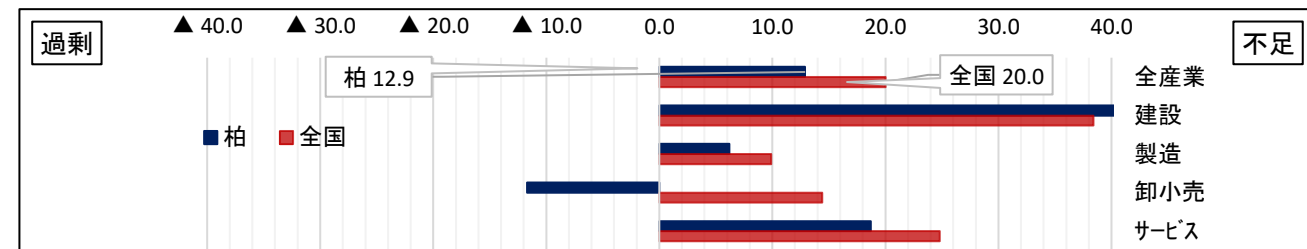
【採算DI】



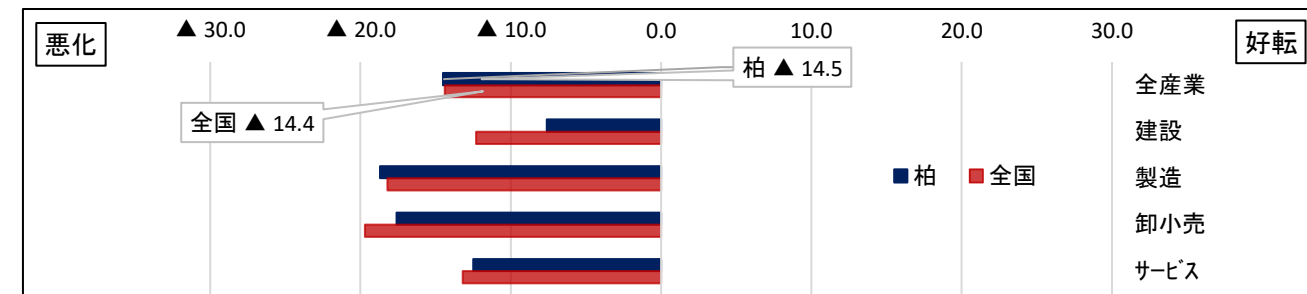
【仕入単価DI】



【従業員DI】



【資金繰りDI】



【業種別】 業界内トピックス

業種別	概 況	業 種
建設業	原油高騰により資材不足で現場が進まない	土木工事業
	いぐさ農家さんの宣伝の結果か 高くても国産のいぐさで畳表替えをしたいというお客様が増加している事により、 業況好転	畳工事請負・畳製造販売業
製造業	医療品容器に関しては受注や新企画立案等イラン問題の大きな懸念はあるが状況は活気がある。化粧品容器に関しては新規の話など何もなく相変わらず壊滅状態である。	プラスチック加工
	レジン原料の素材の高騰により、これに由来する資源材料仕入先の変更などが発生。 コスト増加が見込まれるが、いまのところ、生産計画には支障なし。	酒類製造業
	米国の不安定な政策により、設備投資に踏み出せないでいる企業が多い。ただ、世の中の変化が激しいので設備投資を行った会社とそうでない会社の差が大きくなりそうである。	一般産業用機械・装置製造業
	中東関連の影響が出てきている(欠品、見積もり、納期)先行見積もりの対応が難しい状態	金属加工機械製造業
	部品や装置の値上げが止まらない 石油由来の品が入手困難になっている	その他の機械・同部品製造業
	原材料、商材の欠品、納期遅れ、値上げが石油関連商材を中心に多発している。値上げについては、毎月価格改定を実施する取引先も出てきた。価格転嫁が追いつかないのと、欠品による売上の機会損失が増えてきた。	自動車・同附属品製造業
卸・小売業	活性化で客数が伸び売上は改善しているが、コストアップの圧力が大きく利益は昨年を維持するのが精一杯である。経費はあらゆる手を尽くして昨年並みで耐えている(人件費と水光熱費の上昇が激しいので他を削減して帳尻を合わせている)米騒動が一周し在庫が潤沢に入荷しているが売れていない。昨年よりは安いが一昨年よりは高く手が伸びない状況。また、米騒動で恩恵を受けていたパンやパスタの売れ行きも悪い。昨年全体を牽引した食品の勢いに陰りが出ている。母の日を過ぎて最高気温が25℃を超え初夏の雰囲気、UV対策や熱中症対策・省エネ対応商品の売れ行きは良く初夏物の消化は順調に推移している。	大型小売店
	* 仕入れ値の高騰に続き、入荷・納品についても心配	その他の各種商品小売業
	包装資材の卸売業ですが、ナフサ由来の製品の出荷制限・受注停止が実施されているなか、思い通りの仕入れができなくなっている。価格のみが大幅に改定(値上)されいる状態が続き、製品は動かずとも価格だけが独り歩きしており、先行き不透明感がかなり高い。	包装資材機器卸
サービス業	リフォームの際、建材のPROshopを利用しますが、昨今の価格にびっくり。また今後のエアコン等の設備も高騰していきますので、家賃に転嫁せざるおえない感じです。	不動産賃貸・管理業
	仕入れや消耗品、修繕費用が大幅に上昇しており利益を圧迫している状況です。全体的に2~3割上昇しており採算が悪化し続けております。	ゴルフ練習場
	少子化も影響もあって、大学は推薦入試が主流となり、最近では高3塾生の7割近くが年内に受験を終えてしまう。この影響で12月~2月の売上が落ち込むため、英検講座や小論文講座などを春から前倒しで実施している。	学習塾
	従業員の補強が今月より確保され、人員については適正化が図られた。 中東情勢について、弊社には資材的な影響は無いが、経費の増加に注意が必要である。 一方で新規事業分野拡大のための資金確保や分野拡大の活動を進める必要が	地質調査・地質コンサルタント
	ナフサ関連商品が不足で、更に大幅な値上げとなり、今後のメニュー価格への転嫁を検討しないといけない状況になっている	日本料理

調査要領

回答期間

令和8年4月20日 ～ 令和8年5月7日

調査対象

柏市内173事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	173	62	35.8%
建設	38	13	34.2%
製造	44	16	36.4%
卸・小売	46	17	37.0%
サービス	45	16	35.6%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり进行を意味する。

DI = （増加・好転などの回答割合） - （減少・悪化などの回答割合）

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調 	好調 	まあまあ 	不振 	極めて不振 